



早急に買い物や通院等に困る
市民への対応策を！

答弁 研究し実現に向けていきたい

議員

市民の方々から買い物や通院での移動に困っている旨の話を多く聞いている。公共交通施策のように2年以上の準備期間を要するものではなく、すぐに対応できる支援策はないのかという思いである。対応策としては、移動販売や配達サービスなどが考えられるが、行政として検討されているのかを含めて、買い物や通院等に困る市民への対応策について伺う。

保健福祉部長

市が主体となつて市域全体に提供することは困難であると判断されることが多く、実現には至っていないというのが現状である。また、地域ケア会議で圏域ごとに何を買うのに困っているのか、買い物困難である原因は何かを聞き取り、調査を行うとともに、解決策の模索も福祉部局のみならず公共交通担当部局を交えて検討を現在行っている。



常総きぬ川花火大会について

答弁 ごみ問題は、ごみ箱設置の検討が必要

議員

来年度の常総きぬ川花火大会は東京オリンピックの開催時期と重なり、東京に警察や警備員が集中してしまうため、例年どおり8月中の開催は困難であると考えますが、当市の考えは。

産業振興部長

8月以前の開催は他のイベントとの調整が難しく、遅らせる方向も一つの案として考えている。

議員

花火大会は大盛況に終えたが、イベント終了後の会場のごみ問題についてはとても残念な結果となった。翌日に市民・市職員・各団体・ボランティア等の協力によりごみを回収し、きれいなまちへの復元を行っているが、根本的な解決策を見いだす時期にきていると考える。改めてごみ箱等を設置し、ごみ回収の強化、マナー・モラルの向上を図る取組を検討すべきと考えますが市としての考えは。

産業振興部長

花火大会は常総市で一番の来場者数を誇るイベントであるがごみの量も膨大で、特別観覧席市民の広場、水海道・北水海道駅周辺や商店街にまで及んでいる。このため、大会翌日にシルバー人材センターのボランティア、地元住民、街商組合、市職員等により、早朝からごみの回収を行っているが、広範囲に及び対応しきれないのが現状である。これまでごみの持ち帰りを推奨してきたが、来場者数の増加や、一部の人のマナー問題により、新たな対策の検討が必要である。ごみの持ち帰りではなく、ごみ箱設置の検討が必要と思われる。また、ライオンズクラブやロータリークラブ、商工会員等へのボランティアの協力依頼や、業者への委託等、人的・予算面での検討も必要。近隣の花火大会の運営方法も調査し検討したい。

議員

来年からの導入に向けて動いていただきたい。